

地歴公民科 学習指導案

府立千里高等学校
指導者 本間直也

1. 日時 平成 30 年 12 月 20 日 (木) 第 5 時限 12 時 50 分～13 時 40 分
2. 場所 芸術棟 2 階 社会科教室
3. 学年・組・教科 (科目) 第 1 学年 3 組 (40 名)
4. 単元 (題材) 名 多文化共生について考えよう
5. 単元 (題材) の目標

日本は人口減少の時代を迎え、外国人労働者の受け入れを拡大する入管法改正が成立の見込みである。外国人入国者数はすでに欧米並みとなり、ローカルなコミュニティに外国人の隣人が当たり前に見られる時代も遠くないだろう。しかし、外国人を社会の一員として受け入れる心理的・社会的準備はできているのだろうか。ロールプレイを通して、身近な問題として考え、議論する機会としたい。

6. 教材観

愛知県豊田市では 1990 年代から日系ブラジル人の人口が増加し、近年に至るまで市内の団地では日本人と日系ブラジル人の間で多くのトラブルが発生した。ロールプレイでは豊田市をモデルとして役割を設定してみた。

7. 生徒観

1 年生国際文化科で、文系の生徒である。

8. 指導観

3 時間構成とし、1 時間目に問題の現状把握、2 時間目にロールプレイと考察を行う。3 時間目には解決策の創造に取り組む。

9. 単元 (題材) の評価規準

a 関心・意欲・態度	b 思考・判断・表現	c 技能	d 知識・理解
積極的に参加しているか。 他人の意見をリスペクトしつつ、 耳をかたむけることが出来たか。	ロールプレイの役割をイメージし つつ自分の意見をまとめて発 言できたか。	利害関係を越えた解決策を提 案する能力がいたか。	GLOBAL 化のメリット・デメリッ トをまとめることができたか。 問題の背景を理解できたか。

10. 単元の指導と評価の計画 (全 3 時間)

時	学習内容	評価の観点*				主な評価規準・評価方法
		a	b	c	d	
第 1 時	GOCAL とは GLOBAL 化のメリット GLOBAL 化のデメリット 地域社会と GLOBAL 化	○			○	自分の考えをまとめてペアワークの相手に伝えること、プリントにまとめることができて いるか。
第 2 時 本時	役割分担 ロールプレイ		○			積極的に参加し、解決策にむけてグループで協 力ができているか。
第 3 時	ふりかえり 実際の実践例紹介 (川口市芝園団地の例)			○	○	利害関係者が Win-Win になる解決策に到達す ることができたか。

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

利害関係者の思いを迫体験し、お互いに Win-Win になることができるような解決策を考える。

(2) 本時の評価規準

ロールプレイやグループワークへの積極的な参加度合い、結論の内容。

(3) 本時の準備物

役割分担カード、プリント、パワーポイント

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
5分 導 入	○ロールプレイのルール説明、グループワークで考えて欲しいことの伝達	あおぞら財団のロールプレイを思い出させる。 グループリーダーを決め、自主的にグループ活動が進むよう役割分担。	
40分 展 開	○ロールプレイの実践 (20分) ○グループワーク (20分)	●:指導上の留意点 机間指導で活動が活発になるように声かけを行う。 議論が停滞しているグループには、活発になるような援助を行う。 ★:理解の不十分な生徒への手立て グループ内で生徒が相互に説明しあえるようリーダーを通し指示。	◎ロールプレイに積極的に参加しているか観察。 ◎グループ学習をしているときに、生徒の様子を観察し、リーダーシップを発揮している生徒や、努力を要する生徒の観察をする。
5分 ま と め	○受け入れ先進国ドイツの事例紹介 ○日本の将来の見通しを解説	自分たちの将来、いつかこのような問題に直面することを自覚させる。	

「観点別評価の判断基準」の設定

判断基準 評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 指導の手立て
	[b]	多文化共生の対策についてまとめるとともに、課題を解決する方法を具体的にまとめている。	

